

式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	宮城県農業大学校
設置者名	宮城県

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
水田経営学部	水田高度利用専攻	夜・通信	240 時間	160 時間	
	園芸複合化専攻	夜・通信	240 時間	160 時間	
園芸学部	野菜専攻	夜・通信	240 時間	160 時間	
	花き専攻	夜・通信	240 時間	160 時間	
	果樹専攻	夜・通信	240 時間	160 時間	
畜産学部	酪農専攻	夜・通信	240 時間	160 時間	
	肉牛専攻	夜・通信	240 時間	160 時間	
	養豚専攻	夜・通信	240 時間	160 時間	
アグリビジネス学部		夜・通信	240 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・教育計画（冊子）を学生に配付 ・宮城県農業大学校ホームページに掲載 https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/_02024syllabus.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第 2 号の 2－②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第 2 号の 2－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	宮城県農業大学校
設置者名	宮城県

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	宮城県農業大学校学校評議員会
役割	学校評議委員会は、宮城県農業大学校長の求めに応じ、学校運営に関する事項についての意見や助言を述べるものとする。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
大学教授	2025. 6. 27～ 2026. 3. 31	
農業経営者	2025. 6. 27～ 2026. 3. 31	
同窓会長	2025. 6. 27～ 2026. 3. 31	卒業生
後援会長	2025. 6. 27～ 2026. 3. 31	保護者
（備考）		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮城県農業大学校
設置者名	宮城県

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 「教育計画」は以下の内容について検討し、各年度の教育内容を、学生、職員等に周知している。 ○科目名 ○授業時期（前期・後期・前後期） ○講師名 ○実施教室 ○単位数 ○科目目標 ○科目内容 ○使用教材 ○評価方法 「教育計画」の作成・公表時期 3月下旬までに作成し、4月に学生、職員に配布している。	
授業計画書の公表方法	・教育計画（冊子）を学生に配布 ・宮城県農業大学校ホームページに掲載 https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/_02024syllabus.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学習の成績は、定期試験、レポート等（履修科目内容参照）により総合的に評価する。 評価は100点法により行い、85点以上を「優」、70点以上85点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」とする。「優」、「良」、「可」は単位の修得が認定されるが、「不可」は認定されない。また、授業科目により、他大学・短大等での既取得科目、既取得資格に応じて、単位を認定することがある。出席時間数が不足する場合は、履修が認められず単位未修得となる。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 定期試験・レポート等により総合的に評価する。評価は100点法により行い、85点以上を「優」、70点以上85点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」とする。「優」、「良」、「可」は単位取得が認定されるが、「不可」は認定されない。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	・教育計画（冊子）を学生に配布 ・教育計画の入手場所：宮城県農業大学校教務部
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 必修科目を全て修得し、かつ、修得した単位数が80単位以上で修得時間が2,400時間以上の場合に卒業が認められる。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	・教育計画（冊子）を学生に配布 ・教育計画の入手場所：宮城県農業大学校教務部

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	宮城県農業大学校
設置者名	宮城県

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	該当なし
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業分野		水田経営学部	水田高度利用専攻 園芸複合化専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2,340 単位時間／ 単位	645 単位時間 /43 単位	390 単位時間 /13 単位	1,710 単位時間 /38 単位	90 単位時間 /3 単位	単位時間/ 単位
			2,835 単位時間／97 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		17 人	0 人	3 人	16 人	19 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） - 授業科目は、教養科目・専門科目・専攻科目に分けられ、それぞれ必修科目と選択科目がある。 教養科目：一般教養として全学部共通に履修する科目。 専門科目：就農する上での基礎知識として全学部共通に履修する科目。 専攻科目：学部ごとに専門知識として履修する科目。 必修科目：必ず履修し、単位を修得しなければならない科目で、学部によって異なる。 選択科目：学生が進路・興味・関心に応じて選択して履修する科目。 - 授業時間は、1校時を90分で行い、2時間分とする。 1学年の授業は、名取教場で教養科目・専門科目を中心に行う。また、年間34日間、古川教場で専攻科目の授業を行う。 2学年の授業は、古川教場で専攻科目の授業を行う。また、年間23日間、名取教場で教養科目・専門科目の授業を行う。 - 授業形態は、講義・実験・演習・実習を組み合わせ、グループ制により効果的に実施する。

・ 各学年の授業の実施計画は、「授業時間表」に示す。
成績評価の基準・方法
(概要) 定期試験・レポート等により総合的に評価する。評価は 100 点法により行い、85 点以上を「優」、70 点以上 85 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」、60 点未満を「不可」とする。「優」、「良」、「可」は単位修得が認定されるが、「不可」は認定されない。
卒業・進級の認定基準
(概要) 必修科目を全て修得し、かつ、習得した単位数が 80 単位以上で習得時間が 2,400 時間以上の場合に卒業が認められる。
学修支援等
(概要) 農業の実践に役立つ各種資格、免許が取得できるよう学習指導課程で配慮し、取得に必要な知識・技術について支援する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10 人 (100%)	人 (%)	10 人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 就農（自営、農業法人）、農業関連企業、公務員、農業団体			
(就職指導内容) ・ 就職支援員の設置 ・ 学部長と就職支援員が学生との個別面談を年 3 回以上実施 ・ 毎月、進路指導推進会議を実施 ・ 学生と農業法人とのマッチングの場として、農業法人セミナーを開催			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ 大型特殊自動車運転免許（農耕車限定） ・ けん引免許（農耕車限定） ・ 危険物取扱者資格（乙種 4 類） ・ 日本商工会議所簿記検定（3 級） ・ 日本土壌協会土壌医検定（3 級） ・ フォークリフト運転技能者（1 t 以上） ・ アーク溶接特別教育 ・ ガス溶接技能講習終了			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業分野		園芸学部	野菜専攻 花き専攻 果樹専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2, 295 単位時間／ 74 単位	570 単位時間 /38 単位	630 単位時間 /21 単位	1, 665 単位時 間/37 単位	30 単位時間 /1 単位	単位時間/単位
			2, 895 単位時間／97 単位				
生徒総定員 数		生徒実 員	うち留学 生数	専任教員 数	兼任教員 数	総教員数	
30 人		30 人	0 人	4 人	8 人	1 2 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） ・ 授業科目は、教養科目・専門科目・専攻科目に分けられ、それぞれ必修科目と選択科目がある。 教養科目：一般教養として全学部共通に履修する科目。 専門科目：就農する上での基礎知識として全学部共通に履修する科目。 専攻科目：学部ごとに専門知識として履修する科目。 必修科目：必ず履修し、単位を修得しなければならない科目で、学部によって異なる。 選択科目：学生が進路・興味・関心に応じて選択して履修する科目。 ・ 授業時間は、1 校時を 90 分で行い、2 時間分とする。 ・ 授業は、名取教場で行う。 ・ 授業形態は、講義・実験・演習・実習を組み合わせ、グループ制により効果的に実施する。 ・ 各学年の授業の実施計画は、「授業時間表」に示す。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 定期試験・レポート等により総合的に評価する。評価は 100 点法により行い、85 点以上を「優」、70 点以上 85 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」、60 点未満を「不可」とする。「優」、「良」、「可」は単位修得が認定されるが、「不可」は認定されない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 必修科目を全て修得し、かつ、習得した単位数が 80 単位以上で習得時間が 2,400 時間以上の場合に卒業が認められる。	
学修支援等	
（概要） 農業の実践に役立つ各種資格、免許が取得できるよう学習指導課程で配慮し、取得に必要な知識・技術について支援する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 (100%)	人 (%)	14 人 (93.3%)	1 人 (6.7%)
（主な就職、業界等） 就農（自営、農業法人）、農業関連企業			
（就職指導内容） ・ 就職支援員の設置 ・ 学部長と就職支援員が学生との個別面談を年 3 回以上実施 ・ 毎月、進路指導推進会議を実施 ・ 学生と農業法人とのマッチングの場として、農業法人セミナーを開催			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・ 大型特殊自動車運転免許（農耕者限定） ・ けん引免許（農耕者限定） ・ 危険物取扱者資格（乙種 4 類） ・ 日本商工会議所簿記検定（3 級） ・ 日本土壤協会土壤医検定（3 級） ・ フォークリフト運転技能者（1 t 以上） ・ アーク溶接特別教育 ・ ガス溶接技能講習終了 ・ 日本商工会議所販売士（3 級） ・ 日本フラワーデザイナー協会フラワーデザイナー（3 級）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	2 人	6.7%
（中途退学の主な理由） 一身上の都合、家庭との両立が困難		
（中退防止・中退者支援のための取組） 教員による電話連絡や本人及び保証人との面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業分野		畜産学部	酪農専攻 肉牛専攻 養豚専攻	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2,160 単位時間／ 70 単位	750 単位時 間/50 単位	390 単位時 間/13 単位	1,665 単位時 間/37 単位	30 単位時間 /1 単位	単位時間/単 位
			2,835 単位時間／101 単位				
生徒総定員 数		生徒実 員	うち留学 生数	専任教員 数	兼任教員 数	総教員数	
30 人		13 人	0 人	3 人	26 人	29 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） - 授業科目は、教養科目・専門科目・専攻科目に分けられ、それぞれ必修科目と選択科目がある。 - 教養科目：一般教養として全学部共通に履修する科目。 - 専門科目：就農する上での基礎知識として全学部共通に履修する科目。 - 専攻科目：学部ごとに専門知識として履修する科目。 - 必修科目：必ず履修し、単位を修得しなければならない科目で、学部によって異なる。 - 選択科目：学生が進路・興味・関心に応じて選択して履修する科目。 - 授業時間は、1 校時を 90 分で行い、2 時間分とする。 1 学年の授業は、名取教場で教養科目・専門科目を中心に行う。また、年間 34 日間、岩出山教場で専攻科目の授業を行う。 2 学年の授業は、岩出山教場で専攻科目の授業を行う。また、年間 23 日間、名取教場で教養科目・専門科目の授業を行う。 - 授業形態は、講義・実験・演習・実習を組み合わせ、グループ制により効果的に実施する。 - 各学年の授業の実施計画は、「授業時間表」に示す。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 定期試験・レポート等により総合的に評価する。評価は 100 点法により行い、85 点以上を「優」、70 点以上 85 点未満を「良」、60 点以上 70 点未満を「可」、60 点未満を「不可」とする。「優」、「良」、「可」は単位修得が認定されるが、「不可」は認定されない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 必修科目を全て修得し、かつ、習得した単位数が 80 単位以上で習得時間が 2,400 時間以上の場合に卒業が認められる。	
学修支援等	
（概要） 農業の実践に役立つ各種資格、免許が取得できるよう学習指導課程で配慮し、取得に必要な知識・技術について支援する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
7 人 (100%)	1 人 (14.3%)	5 人 (71.4%)	1 人 (14.3%)
(主な就職、業界等) 就農（自営、農業法人）、農業団体、農業関連企業			
(就職指導内容) ・ 就職支援員の設置 ・ 学部長と就職支援員が学生との個別面談を年 3 回以上実施 ・ 毎月、進路指導推進会議を実施 ・ 学生と農業法人とのマッチングの場として、農業法人セミナーを開催			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ 大型特殊自動車運転免許（農耕者限定） ・ けん引免許（農耕者限定） ・ 危険物取扱者資格（乙種 4 類） ・ 日本商工会議所簿記検定（3 級） ・ 日本土壌協会土壌医検定（3 級） ・ フォークリフト運転技能者（1 t 以上） ・ アーク溶接特別教育 ・ ガス溶接技能講習終了			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業分野		アグリビジ ネス学部		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2,205 単位時間／ 71 単位	615 単位時間/ 41 単位	630 単位時間/ 21 単位	1,620 単位時 間/36 単位	単位時間/単 位	単位時間/単 位
			2,865 単位時間／98 単位				
生徒総定員 数		生徒実 員	うち留學 生数	専任教員 数	兼任教員 数	総教員数	
20 人		20	0 人	3 人	17 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） - 授業科目は、教養科目・専門科目・専攻科目に分けられ、それぞれ必修科目と選択科目がある。 - 教養科目：一般教養として全学部共通に履修する科目。 - 専門科目：就農する上での基礎知識として全学部共通に履修する科目。 - 専攻科目：学部ごとに専門知識として履修する科目。 - 必修科目：必ず履修し、単位を修得しなければならない科目で、学部によって異なる。 - 選択科目：学生が進路・興味・関心に応じて選択して履修する科目。 - 授業時間は、1校時を90分で行い、2時間分とする。 - 授業は、名取教場で行う。 - 授業形態は、講義・実験・演習・実習を組み合わせ、グループ制により効果的に実施する。 - 各学年の授業の実施計画は、「授業時間表」に示す。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 定期試験・レポート等により総合的に評価する。評価は100点法により行い、85点以上を「優」、70点以上85点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」とする。「優」、「良」、「可」は単位修得が認定されるが、「不可」は認定されない。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 必修科目を全て修得し、かつ、習得した単位数が80単位以上で習得時間が2,400時間以上の場合に卒業が認められる。	
学修支援等	
（概要） 農業の実践に役立つ各種資格、免許が取得できるよう学習指導課程で配慮し、取得に必要な知識・技術について支援する。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8 人 (100%)	人 (%)	7 人 (87.5%)	1 人 (12.5%)
（主な就職、業界等） 農業法人、農業団体			
（就職指導内容） ・ 就職支援員の設置 ・ 学部長と就職支援員が学生との個別面談を年 3 回以上実施 ・ 毎月、進路指導推進会議を実施 ・ 学生と農業法人とのマッチングの場として、農業法人セミナーを開催			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・ 大型特殊自動車運転免許（農耕者限定） ・ けん引免許（農耕者限定） ・ 危険物取扱者資格（乙種 4 類） ・ 日本商工会議所簿記検定（3 級） ・ 日本土壌協会土壌医検定（3 級） ・ フォークリフト運転技能者（1 t 以上） ・ アーク溶接特別教育 ・ ガス溶接技能講習終了			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	2 人	10.5%
（中途退学の主な理由） 一身上の都合、他にやりたいことがある		
（中退防止・中退者支援のための取組） 教員による本人及び保証人との面談やカウンセラーとの面談		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
水田経営学部	5,650 円	118,800 円	100,000 円～ 500,000 円	
園芸学部	5,650 円	118,800 円	100,000 円～ 500,000 円	
畜産学部	5,650 円	118,800 円	100,000 円～ 500,000 円	
アグリビジネス学部	5,650 円	118,800 円	100,000 円～ 500,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ・宮城県農業大学校評議委員会で報告 ・宮城県農業大学校ホームページに掲載 https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/_06014ikohyouka.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
評価項目 自己評価の実施方法、取組内容、自己評価結果の適切性、改善方策 宮城県農業大学校学校評議委員会 https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/_06013hyouka.html 評価結果の活用方法 評価結果及び評議委員会での意見を基に、必要に応じて教育活動の見直しや教育環境の整備等の改善措置を講じていく。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
県立大学校	1 年（再任を妨げない）	大学教授
民間企業（農業関係）	1 年（再任を妨げない）	農業経営者
同窓会	1 年（再任を妨げない）	卒業生
後援会	1 年（再任を妨げない）	保証人
農業普及センター	1 年（再任を妨げない）	農業行政
県立農業高校	1 年（再任を妨げない）	校長
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 宮城県農業大学校学校評議委員会 https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/_06013hyouka.html		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/index.html>

(別紙)

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名（〇〇大学 等）	宮城県農業大学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	宮城県

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		－（ 0 人 ）	－（ 0 人 ）	－（ 0 人 ）
内 訳	第Ⅰ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ 0 人 ）	（ 0 人 ）	
	第Ⅱ区分	－	－	
	（うち多子世帯）	（ 0 人 ）	（ 0 人 ）	
	第Ⅲ区分	－	0人	
	（うち多子世帯）	（ 0 人 ）	（ 0 人 ）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	0人	0人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－（ 0 人 ）
合計（年間）				－（ 0 人 ）
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1） 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0 人
----	-----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期	
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人	

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の 大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、 認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定 専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限 が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期	
修得単位数が「警告」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履 修科目の単位時間数が警告の基準に該当）	人	0 人	0 人	
G P A等が下位 4 分の 1	人	0 人	0 人	
出席率が「警告」の基準に該当又は 学修意欲が低い状況	人	0 人	0 人	
計	人	0 人	0 人	
(備考)				

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。